

平成30年度 広島大学 2次試験前期日程(数学問題)150分
理・工・医・歯・薬・教育(自然系・理数系)・
総合学科(理科系)・生物生産

1 次の問いに答えよ。

- (1) 次の条件(A)を満たす座標平面上の点 (u, v) の存在範囲を図示せよ。
(A) 2次式 $t^2 - ut + v$ は、 $0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1$ を満たす実数 x, y を用いて $t^2 - ut + v = (t - x)(t - y)$ と因数分解される。
- (2) 次の条件(B)を満たす座標平面上の点 (u, v) の存在範囲を図示せよ。
(B) 2次式 $t^2 - ut + v$ は、 $0 \leq x \leq 1, 1 \leq y \leq 2$ を満たす実数 x, y を用いて $t^2 - ut + v = (t - x)(t - y)$ と因数分解される。
- (3) 座標平面上の点 (x, y) が4点 $(0, 0), (1, 0), (1, 2), (0, 2)$ を頂点とする長方形の周および内部を動くとき、点 $(x + y, xy)$ の動く範囲の面積を求めよ。

2 複素数平面上の4点 $A(\alpha), B(\beta), C(\gamma), D(\delta)$ を頂点とする四角形 ABCD を考える。ただし、四角形 ABCD は、すべての内角が 180° より小さい四角形(凸四角形)であるとする。また、四角形 ABCD の頂点は反時計回りに A, B, C, D の順に並んでいるとする。四角形 ABCD の外側に、4辺 AB, BC, CD, DA をそれぞれ斜辺とする直角二等辺三角形 APB, BQC, CRD, DSA を作る。次の問いに答えよ。

- (1) 点 P を表す複素数を求めよ。
- (2) 四角形 PQRS が平行四辺形であるための必要十分条件は、四角形 ABCD がどのような四角形であることが答えよ。
- (3) 四角形 PQRS が平行四辺形であるならば、四角形 PQRS は正方形であることを示せ。

3 次の問いに答えよ。

- (1) すべての実数 t に対し、 $1 + t \leq e^t$ が成り立つことを示せ。
- (2) 定積分 $\int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1}{1 + \sin x} dx$ の値を求めよ。
- (3) 次の不等式を示せ。

$$\frac{\pi}{4} - 1 + \frac{\sqrt{2}}{2} \leq \int_0^{\frac{\pi}{4}} e^{-\sin x} dx \leq 2 - \sqrt{2}$$

- 4 $0, 1, 2, 3$ の数字が一つずつ書かれた4枚のカードがある．この中から1枚を取り出し，書かれた数字を見て元に戻す．この操作を N 回繰り返す，カードに書かれた数字を順に Z_1, Z_2, \dots, Z_n とする．ここで， N は3以上の自然数である．さらに，複素数

$$\alpha = \cos \frac{2}{3}\pi + i \sin \frac{2}{3}\pi$$

を用いて，項数 N の数列 $\{X_n\}$ を

$$X_1 = \alpha^{Z_1}, \quad X_{n+1} = X_n \alpha^{Z_{n+1}} \quad (n = 1, 2, \dots, N-1)$$

により定める． $n = 1, 2, \dots, N$ に対し， $X_n = \alpha$ となる確率を P_n とし， $X_n = \alpha^2$ となる確率を Q_n とする．次の問いに答えよ．

- (1) P_1 を求めよ．
 - (2) $n = 1, 2, \dots, N-1$ とする． $\alpha^{Z_{n+1}} = 1$ となる確率を求めよ．
 - (3) $n = 1, 2, \dots, N$ とする． $X_n = 1$ となる確率を， P_n と Q_n を用いて表せ．
 - (4) $n = 1, 2, \dots, N-1$ に対し， P_n を用いて P_{n+1} を表せ．
 - (5) $n = 1, 2, \dots, N$ に対し， P_n を求めよ．
- 5 座標平面上で，曲線 $C: y = x^3 - 3x$ と， $b > a^3 - 3a$ を満たすように動く点 $P(a, b)$ を考える．また，点 P に対し，二つの不等式

$$|x - a| \leq 1, \quad |y - b| \leq 1$$

によって表される座標平面上の領域を B とする．領域 B と曲線 C に対して， B と C が共有点 Q をもち，さらに B と C の共有点が B の境界線上にしかないとき， B と C は点 Q で接するというにすることにする．次の問いに答えよ．

- (1) 曲線 C の概形をかき，さらに点 P の座標が $(-2, 3)$ のときの領域 B を図示せよ．
- (2) B と C が $x < -1$ の範囲にある点で接するように，点 P は動くとする．このときの点 P の軌跡を求めよ．
- (3) B と C がある点で接するように点 P は動くとする．このときの点 P の軌跡を求めよ．
- (4) (3) の点 P の軌跡は，ある関数 $y = f(x)$ のグラフで表すことができる．この $f(x)$ は $x = 0$ で微分可能であることを示せ．

解答例

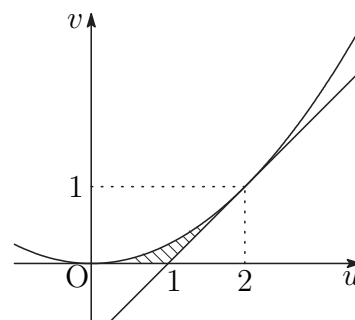
$$\boxed{1} \quad (1) \quad f(t) = t^2 - ut + v \text{ とおくと } f(t) = \left(t - \frac{u}{2}\right)^2 + v - \frac{u^2}{4}$$

2次方程式 $f(t) = 0$ の実数解 x, y が $0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1$ を満たすから,
 $f(0) \geq 0, f(1) \geq 0$ および上式より

$$v \geq 0, \quad 1 - u + v \geq 0, \quad 0 \leq \frac{u}{2} \leq 1, \quad v - \frac{u^2}{4} \leq 0$$

これらを整理すると

$$\begin{cases} 0 \leq u \leq 2 \\ v \geq 0 \\ v \geq u - 1 \\ v \leq \frac{u^2}{4} \end{cases}$$



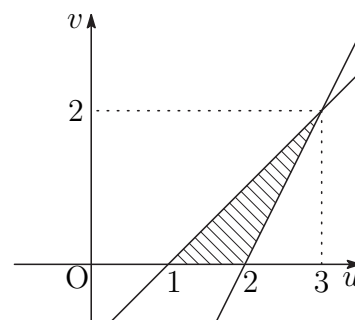
よって、求める領域は、右の図の斜線部分
 で境界を含む。

(2) 2次方程式 $f(t) = 0$ の実数解 x, y が $0 \leq x \leq 1 \leq y \leq 2$ を満たすから,
 $f(0) \geq 0, f(1) \leq 0, f(2) \geq 0$ より

$$v \geq 0, \quad 1 - u + v \leq 0, \quad 4 - 2u + v \geq 0$$

これらを整理すると

$$\begin{cases} v \geq 0 \\ v \leq u - 1 \\ v \geq 2u - 4 \end{cases}$$



よって、求める領域は、右の図の斜線部分
 で境界を含む。

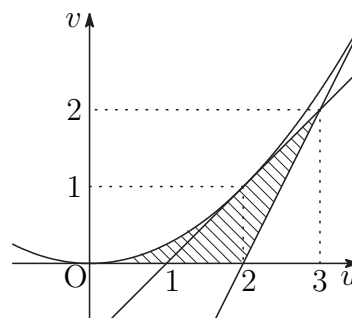
- (3) $A = \{(x, y) \mid 0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1\}$, $B = \{(x, y) \mid 0 \leq x \leq 1 \leq y \leq 2\}$ とすると, (x, y) が4点 $(0, 0)$, $(1, 0)$, $(1, 2)$, $(0, 2)$ を頂点とする長方形の周および内部は $A \cup B$ である. (1), (2) で求めた領域をそれぞれ E , F とすると

点 $(x + y, xy)$ すなわち 点 (u, v)

の表す領域は $E \cup F$ で, 右の図のようになる.

よって, 求める面積を S とすると

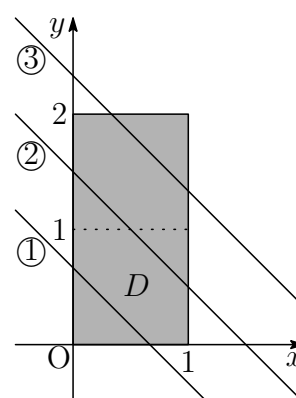
$$\begin{aligned} S &= \int_0^2 \frac{u^2}{4} du + \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot 1 \\ &= \left[\frac{u^3}{12} \right]_0^2 + \frac{1}{2} = \frac{7}{6} \end{aligned}$$



別解 $D = \{(x, y) \mid 0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 2\}$ とし, 直線 $x + y = u$ 上の点 $(x, y) \in D$ における $v = xy$ のとる値の範囲を求める.

$$v = x(u - x) = -\left(x - \frac{u}{2}\right)^2 + \frac{u^2}{4}$$

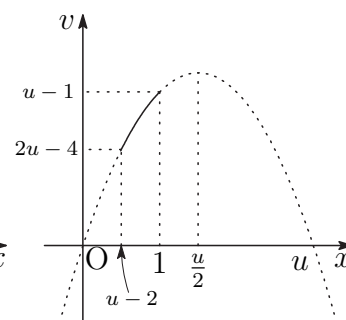
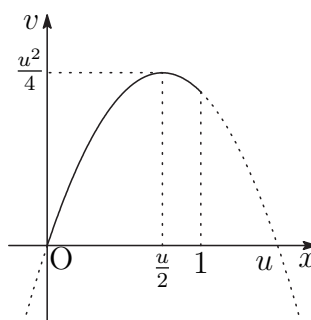
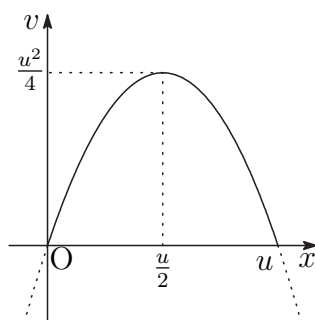
- ① $0 \leq u \leq 1$ のとき $0 \leq x \leq u$
 ② $1 \leq u \leq 2$ のとき $0 \leq x \leq 1$
 ③ $2 \leq u \leq 3$ のとき $u - 2 \leq x \leq 1$



① $0 \leq u \leq 1$

② $1 \leq u \leq 2$

③ $2 \leq u \leq 3$



(i) $0 \leq u \leq 2$ のとき $0 \leq v \leq \frac{u^2}{4}$

(ii) $2 \leq u \leq 3$ のとき $2u - 4 \leq v \leq u - 1$

よって $S = \int_0^2 \frac{u^2}{4} du + \int_2^3 \{(u - 1) - (2u - 4)\} du = \frac{7}{6}$

2 (1) $P(z_1)$ とすると

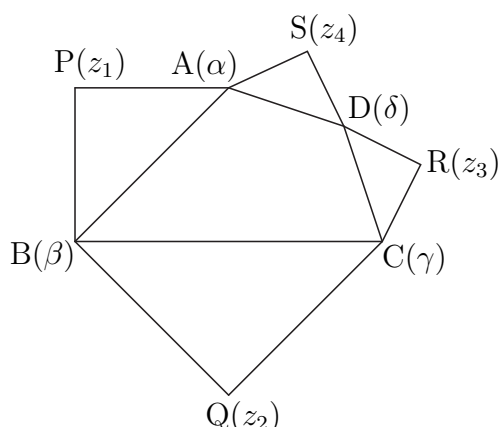
$$\frac{BP}{BA} = \frac{1}{\sqrt{2}}, \quad \angle \alpha \beta z_1 = \frac{\pi}{4}$$

したがって

$$\frac{z_1 - \beta}{\alpha - \beta} = \frac{1}{\sqrt{2}} \left(\cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4} \right)$$

$$\text{ゆえに } z_1 - \beta = \frac{1}{2}(1+i)(\alpha - \beta)$$

$$\text{よって } z_1 = \frac{1}{2}(1+i)\alpha + \frac{1}{2}(1-i)\beta$$



(2) $Q(z_2)$, $R(z_3)$, $S(z_4)$ とおくと, (1) と同様にして

$$z_2 = \frac{1}{2}(1+i)\beta + \frac{1}{2}(1-i)\gamma, \quad z_3 = \frac{1}{2}(1+i)\gamma + \frac{1}{2}(1-i)\delta$$

$$z_4 = \frac{1}{2}(1+i)\delta + \frac{1}{2}(1-i)\alpha$$

$$\begin{aligned} \text{ゆえに } -z_1 + z_2 - z_3 + z_4 &= \frac{1}{2}(1+i)(-\alpha + \beta - \gamma + \delta) \\ &\quad + \frac{1}{2}(1-i)(-\beta + \gamma - \delta + \alpha) \\ &= i(-\alpha + \beta - \gamma + \delta) \end{aligned}$$

$$\text{したがって } -z_1 + z_2 - z_3 + z_4 = 0 \iff -\alpha + \beta - \gamma + \delta = 0$$

$$\text{すなわち } z_2 - z_1 = z_3 - z_4 \iff \beta - \alpha = \gamma - \delta$$

よって, 四角形 ABCD が平行四辺形であることは四角形 PQRS が平行四辺形であるための必要十分条件である.

(3) 四角形 PQRS が平行四辺形であるから, (2) の結果より, $\delta - \gamma = \alpha - \beta$

$$\begin{aligned} z_1 - z_2 &= \frac{1}{2}(1+i)(\alpha - \beta) + \frac{1}{2}(1-i)(\beta - \gamma), \\ z_3 - z_2 &= \frac{1}{2}(1+i)(\gamma - \beta) + \frac{1}{2}(1-i)(\delta - \gamma) \\ &= \frac{1}{2}(1+i)(\gamma - \beta) + \frac{1}{2}(1-i)(\alpha - \beta) \end{aligned}$$

$$\text{したがって } i(z_3 - z_2) = \frac{1}{2}(i-1)(\gamma - \beta) + \frac{1}{2}(i+1)(\alpha - \beta) = z_1 - z_2$$

$$\text{上式から } \frac{z_1 - z_2}{z_3 - z_2} = i \quad \text{ゆえに } PQ = QR, \quad \angle PQR = 90^\circ$$

四角形 PQRS は平行四辺形でもあるから, 四角形 PQRS は正方形である.

3 (1) $f(t) = e^t - 1 - t$ とおくと $f'(t) = e^t - 1$

t	...	0	-
$f'(t)$	-	0	+
$f(t)$	\	0	/

よって、すべての実数 t に対し、次式が成立する。

$$e^t - 1 - t \geq 0 \quad \text{すなわち} \quad 1 + t \leq e^t \quad \dots(*)$$

$$\begin{aligned} (2) \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1}{1 + \sin x} dx &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1 - \sin x}{(1 + \sin x)(1 - \sin x)} dx \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left(\frac{1}{\cos^2 x} - \frac{\sin x}{\cos^2 x} \right) dx \\ &= \left[\tan x - \frac{1}{\cos x} \right]_0^{\frac{\pi}{4}} = 2 - \sqrt{2} \end{aligned}$$

(3) (*) より $1 - t \leq e^{-t}$

$t > -1$ のとき、 $1 + t > 0$ であるから、(*) より $e^{-t} \leq \frac{1}{1 + t}$

したがって、 $t > -1$ のとき $1 - t \leq e^{-t} \leq \frac{1}{1 + t} \quad \dots(**)$

$t = \sin x$ ($0 \leq x \leq \frac{\pi}{4}$) とすると、(**) を満たすから

$$1 - \sin x \leq e^{-\sin x} \leq \frac{1}{1 + \sin x}$$

したがって $\int_0^{\frac{\pi}{4}} (1 - \sin x) dx \leq \int_0^{\frac{\pi}{4}} e^{-\sin x} dx \leq \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1}{1 + \sin x} dx$

このとき $\int_0^{\frac{\pi}{4}} (1 - \sin x) dx = \left[x + \cos x \right]_0^{\frac{\pi}{4}} = \frac{\pi}{4} - 1 + \frac{\sqrt{2}}{2}$

(1) および上の結果から

$$\frac{\pi}{4} - 1 + \frac{\sqrt{2}}{2} \leq \int_0^{\frac{\pi}{4}} e^{-\sin x} dx \leq 2 - \sqrt{2}$$

4 (1) $X_1 = \alpha$, すなわち, $Z_1 = 1$ となる確率であるから $\frac{1}{4}$

(2) $\alpha^{Z_{n+1}} = 1$, すなわち, $Z_{n+1} = 0, 3$ となる確率であるから $\frac{2}{4} = \frac{1}{2}$

(3) $X_n = 1$ となる確率を R_n とすると $P_n + Q_n + R_n = 1 \cdots (*)$

よって $R_n = 1 - P_n - Q_n$

(4) 条件により, 次の確率漸化式が成立する.

$$P_{n+1} = \frac{1}{2}P_n + \frac{1}{4}Q_n + \frac{1}{4}R_n$$

$$Q_{n+1} = \frac{1}{4}P_n + \frac{1}{2}Q_n + \frac{1}{4}R_n$$

$$R_{n+1} = \frac{1}{4}P_n + \frac{1}{4}Q_n + \frac{1}{2}R_n$$

上の第2式と第3式の辺々を加えると

$$Q_{n+1} + R_{n+1} = \frac{1}{2}P_n + \frac{3}{4}(Q_n + R_n)$$

(*) より, $Q_n + R_n = 1 - P_n$ であるから, これを上式に代入すると

$$1 - P_{n+1} = \frac{1}{2}P_n + \frac{3}{4}(1 - P_n) \quad \text{ゆえに} \quad P_{n+1} = \frac{1}{4}P_n + \frac{1}{4}$$

(5) (4) の結果から $P_{n+1} - \frac{1}{3} = \frac{1}{4} \left(P_n - \frac{1}{3} \right)$

$$\text{ゆえに} \quad P_n - \frac{1}{3} = \left(P_1 - \frac{1}{3} \right) \left(\frac{1}{4} \right)^{n-1}$$

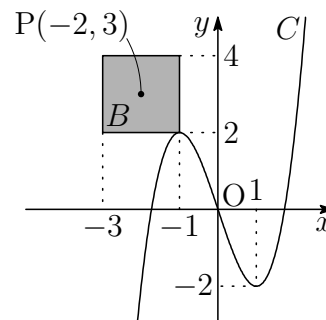
(1) の結果を代入して $P_n = \frac{1}{3} \left(1 - \frac{1}{4^n} \right)$

5 (1) $y = x^3 - 3x$ より

$$y' = 3x^2 - 3 = 3(x+1)(x-1)$$

x	...	-1	...	1	...
y'	+	0	-	0	+
y	↗	2	↘	-2	↗

曲線 C の概形は右の図のようになる。



P が $(-2, 3)$ のとき, 領域 B は $|x+2| \leq 1, |y-3| \leq 1$ によって, 右の図のようになる。

(2) $g(x) = x^3 - 3x$ とおくと, P は $C : y = g(x)$ ($x < -1$) を x 軸方向に -1 , y 軸方向に 1 だけ平行移動したものであるから

$$y = g(x+1) + 1 \quad (x+1 < -1)$$

よって $y = x^3 + 3x^2 - 1$ ($x < -2$)

(3) 右の図のように B と C が 2 点で接するときの P の x 座標を α とすると

$$g(\alpha-1) = g(\alpha+1)$$

$$(\alpha-1)^3 - 3(\alpha-1) + 1 = (\alpha+1)^3 - 3(\alpha+1) + 1$$

$$\text{整理すると} \quad 3\alpha^2 - 2 = 0$$

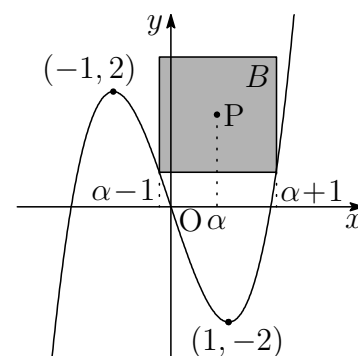
このとき, $\alpha > 0$ であることに注意して

$$\alpha = \frac{\sqrt{6}}{3}$$

$g(x) = x^3 - 3x$ とおくと, 点 P の軌跡の方程式は

$$y = \begin{cases} g(x+1) + 1 & (x < -2) \\ 3 & (-2 \leq x \leq 0) \\ g(x-1) + 1 & (0 < x \leq \alpha) \\ g(x+1) + 1 & (\alpha < x) \end{cases}$$

$$\text{よって} \quad y = \begin{cases} x^3 + 3x^2 - 1 & (x < -2) \\ 3 & (-2 \leq x \leq 0) \\ x^3 - 3x^2 + 3 & (0 < x \leq \frac{\sqrt{6}}{3}) \\ x^3 + 3x^2 - 1 & (\frac{\sqrt{6}}{3} < x) \end{cases}$$



(4) (3) の結果から

$$f(x) = \begin{cases} x^3 + 3x^2 - 1 & (x < -2) \\ 3 & (-2 \leq x \leq 0) \\ x^3 - 3x^2 + 3 & (0 < x \leq \frac{\sqrt{6}}{3}) \\ x^3 + 3x^2 - 1 & (\frac{\sqrt{6}}{3} < x) \end{cases}$$

したがって $\lim_{x \rightarrow -0} \frac{f(x) - f(0)}{x} = \lim_{x \rightarrow -0} \frac{3 - 3}{x} = 0,$

$$\lim_{x \rightarrow +0} \frac{f(x) - f(0)}{x} = \lim_{x \rightarrow +0} \frac{(x^3 - 3x^2 + 3) - 3}{x} = 0$$

ゆえに $f'(0) = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{f(x) - f(0)}{x} = 0$

よって, $f(x)$ は $x = 0$ で微分可能である.

補足 $f(x)$ は微分可能 (C^1 級) である.

実際, $f(x) = 3$ ($-2 \leq x \leq 0$), $f(x) = x^3 - 3x^2 + 3$ ($0 \leq x < \frac{\sqrt{6}}{3}$) より

$$f''(x) = 0 \quad (-2 < x < 0), \quad f''(x) = 6x - 6 \quad \left(0 < x < \frac{\sqrt{6}}{3}\right)$$

$\lim_{x \rightarrow -0} f''(x) = 0$, $\lim_{x \rightarrow +0} f''(x) = -6$ より, C^2 級ではない.